

「共に生きる社会」の実現をめざして

IUHW



vol. 104
January
2016

International University of Health and Welfare

新春のごあいさつ

高木邦格理事長

北島政樹学長・矢崎義雄総長・天野隆弘大学院長

卒業研究発表会

学生 & 企業研究発表会



国際医療福祉大学・高邦会グループ理事長

高木 邦格



二〇一六年を迎え、皆様にご挨拶を申し上げます。

国際医療福祉大学は、昨年おかげさまで、昨年で創立二〇周年を迎えました。これまでの二〇年間、本学を支え、ご協力を賜りました多くの方々に、改めて感謝を申し上げます。

昨年は、本学にとって記念すべき一年となりました。一月二七日に政府の国家戦略特区諮問会議が開かれ、本学が千葉県成田市に医学部を新設する計画が認められました。我が国で三八年ぶりに新設される医学部となります。本年三月に文部科学省への設置認可申請を経て八月の設置認可へと、計画通り二〇一七年四月に開学できますよう、教職員一同気を引き締めて準備してまいります。本学では、二〇〇七年より新しい医学教育制

国際医療福祉大学学長

北島 政樹



新年を迎えるに際し、一言ご挨拶を申し上げます。第三次安倍内閣は、我が国の構造的課題である少子高齢化に取り組む「新三本の矢」として、「一億総活躍社会」の実現をめざすことになりました。一方、二〇一四年五月に「国家戦略特区」に指定された成田市は、「国際医療学園都市構想」として将来ビジョンを視野に入れたグローバル化時代の人材育成を軸に医学部の誘致を基本的目標としており、二〇一三年九月に、本学は成田市と共同で国家戦略特区における事業として医学部新設などを提案し、まず二学部五学科（看護・理学療法・作業療法・言語聴覚・医学検査）が本年四月に開設の運びとなりました。

さらに、医療・創薬拠点におけるイノベーションの創出、および医学部の新設を東京圏国家戦略特別区域会議に提案し

度検討会や医学部設置準備委員会を発足し、世界各国の医科大学を多数視察しながら、今必要とされている医学部についての議論を重ねてまいりましたが、いろいろな障害があつてなかなか実現できずにおりました。そんな中、岩盤規制に突破口を開けるといふ安倍政権による国家戦略特区に成田市と共同で「国際医療学園都市構想」を提案し、医学部新設の事業主体として応募いたしました。その結果、国家戦略特区諮問会議で本学の医学部新設がようやく認められるに至りました。その諮問会議の場で安倍総理から、本学の医学部がただ単に新しいというのではなく、多くの留学生を受け入れ外国人教員を多数採用するなど、これまでにないまったく新しい試みであることを評価いただき、こうした取り組みが他の医学部に必ず大きな影響を与えていくだろう、という趣旨のお言葉をいただきました。

新しい医学部では、国際性を重視しグローバルスタンダードに対応した医学教育を行いながら、海外の医療協力でも活躍できる総合診療力を持った医師の育成をめざします。教員のレベルも日本で最高水準とすべく公募したところ、日本人約四〇〇名、外国人約一三〇名という多くの人材が集まり、本学に対する大きな期待を感じております。最終的には、現在グループに在籍する医師を含めた総勢一三〇〇名から二〇〇〇名程度の優秀な教授陣を選出いたします。学費についても全国の私立医科大学の中で一番安い設定とする予定です。一月には医学部の

ており、昨年一月、政府の諮問会議において、国際的な医療人の育成を条件として医学部新設が承認されました。

本学では他大学の学長、学部長を中心とした医学部設置諮問委員会および準備委員会を立ち上げ、診療・教育・研究の立場から多数の建設的な意見交換を行っております。二〇〇七年より国際基準に則した医学教育の検討を開始し、これらの実績を礎としてグローバルスタンダードに対応可能な医学部新設をめざし、特にリベラルアーツ教育の充実による、広い教養と寛容な精神を兼ね備えた「チーム医療」の中核的役割を担う人材の育成をめざしております。

さて、本学の国際交流は医学部設置を踏まえ活発化し、昨年七月のモンゴル国立医療科学大学との大学間協定の締結をはじめ、一月にはラオス国立健康科学大学と学術交流協定を結びました。さらにはベトナム、ミャンマーなどと海外医療協力も展開しております。

一方、学内においては、大学評価基準でもある文部・厚労科研究費獲得のため、応募課題の啓発に積極的に取り組んでまいりました。その結果、二〇一五年度は文部科研究費採択数が新規を含め七五件となり、私立大学五六〇校中、前年の六八位から四五位へと躍進しました。さらに「私立大学改革総合支援事業」(①教育の質的転換、②地域発展、③産業界・他大学との連携、④グローバル化)において、四タイプすべてに選定された大学は、

校舎起工式を挙行し、いよいよ建築工事に着手いたしました。さらに二〇二〇年には、近隣の畑ヶ田地区に六〇〇床規模の附属病院や最先端の医療機器を整備したトレーニングセンターの設置も計画しております。

それに先駆け、本年四月には千葉県成田市に五番目となるキャンパスが誕生いたします。成田看護学部/看護学科、成田保健医療学部/理学療法学科・作業療法学科・言語聴覚学科・医学検査学科の二学部五学科では、千葉県における医療福祉専門職不足の解消に貢献するとともに、国際的に活躍できる専門職を育成してまいります。

創立二〇周年を節目として、各キャンパスでも施設・設備の充実を進めており、大田原本校では開学以来使用している設備や備品のリニューアルに着手いたしました。小田原キャンパスでは昨年グラウンド・体育館を整備し、四月には新しく城内校舎が完成いたしました。大川キャンパスでは看護学部の整備、福岡キャンパスでは看護学部の定員増に伴う校舎拡充を行うなど、教育環境と学生生活の充実を図ります。また、昨年一月には地域貢献事業の一環として、福岡県大川市に四〇〇席規模の映画館とカフェや書店、病児保育施設や在宅療養支援診療所などを併設した「おかわ交流プラザ」がオープンいたしました。今後、地域の方々が交流できる場として活用されることを期待しております。さらに本学がこれまで力を入れてまいりました海外の大学や病院との連携についても、ベトナム・ミャンマーなど各国で新たな協力事業を展開し、

私立大学五〇二校の応募の内、本学を含めて五大学のみであることは自負するものであります。

これらの成果には、縦割りの要素のあった各キャンパスの研究成果を共有し、質向上をめざし創設された「国際医療福祉大学学会」の存在が大きく貢献しております。学会を介してキャンパス間の教育・研究・診療の情報共有が密になり、教職員の研究意欲や協働が高揚したことは否定し得ない事実であります。

こうした大学の変革をめざし、「社会に開かれた大学」の実現のため「第六回キッズスクール」、「第五回幸齢者スクール」を開催し、「第六回高校生作文コンテスト」に寄せられた多くの優秀作品からは、将来の医療福祉の専門職をめざす意気込みが感じられました。

さて、国は昨年一月に「認知症施策推進総合戦略」を策定しました。本学でも大田原市「認知症カフェ」を支援すべく、認知機能と行動・心理症状など機能改善に関する研究とケア・看護・リハビリテーションの手法、および栄養管理などの体制の確立に着手いたしました。

本学は昨年、創立二〇周年を迎えました。さらなる発展をめざし、「一身独立して一国独立す」(激動の時代を再び迎えた今こそ、一人ひとりが自ら考え、自ら行動することで、社会または未来を切り拓いていくことができる)という言葉に教職員ともども心に刻み、本学の発展のために努力する所存であります。

一層の国際貢献をめざします。

附属・関連施設につきましては、昨年二月、国際医療福祉大学三田病院が医療の質と患者様の安全性における最も厳格な国際基準であるJCI基準を満たした病院として認定されました。初回審査では、国内で最高得点を獲得することができました。今後は東京都がん診療連携拠点病院・東京都指定二次救急病院に加え、国際的に開かれた国際基準の病院として、質の高い医療と患者様本位のサービスをご提供してまいります。

東京の山王病院では昨年三月、新棟に産科施設「山王バースセンター」が開設し、NICUの稼働によってこれまで以上に万全の体制でご出産に対応できる環境が整いました。手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」による前立腺がん手術も開始し、より高度な医療をご提供してまいります。九州の高木病院では、療養病棟と障害者病棟の移転・改修をはじめ、国際医療福祉大学と共同で「臨床微生物・遺伝子検査研究センター」を開設し、さらには図書コーナー・レストラン・カフェなどのアメニティの充実を図るなど、大幅な全館リニューアルを行いました。今後も引き続き、急性期から慢性期、予防医学に至るまで高度で専門性の高い医療をご提供できるよう、より一層地域医療に貢献してまいります。

本年もグループ教職員一丸となつて取り組んでまいります。最後に、新しい一年が皆様方にとって充実したよい年であり、ますます祈念いたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。

成田市に医学部を新設する計画が認められました

【二〇一六年三月設置認可申請予定】



国家戦略特別区域の枠組みで、三八年ぶりとなる医学部を二〇一七年四月に新設する計画が認められました。成田二学部五学科棟の隣に新設を予定している医学部では、グローバルスタンダードに対応した医学教育を行いながら、国内はもとより海外の医療協力でも活躍できる医師の育成をめざします。また、二〇二〇年には附属病院の新設も計画しています。

新しい医学部の主な特長

- 世界医学教育連盟(WFME)の標準を超えた医学教育を行い、診療参加型臨床実習を重視。六年次には全学生が海外医療施設で臨床実習を履修。
- 国際性に富んだカリキュラムを編成し、海外の医療体制や保健システム等を学修する国際医療保健学を導入。
- 東南アジアなど海外からの留学生、研修生を受け入れ。
- 外国人教員や海外での診療・教育の経験が豊富な教員を多数採用。
- 授業料は私立医学部で一番低い水準を設定。成績上位者や留学生には減免制度を設定予定。

国際医療福祉大学総長

矢崎 義雄



新年を迎え、皆様にご挨拶を申し上げます。

医療福祉専門職の育成とその地位の向上をめざして一九九五年に開学した本学は、昨年二〇周年を迎えました。本年は、千葉県成田市に新しいキャンパスを開設し、成田看護学部と成田保健医療学部が四月より授業を開始することになっていきます。この成田キャンパスに、日本で約四〇年振りとなる医学部を設置する計画が、国家戦略特区の事業として政府に認められました。グローバルスタンダードに対応した国際性豊かな医学教育のモデル事業を行い、高い総合診療能力を身につけた人材を育成することを目的に、今後設置認可を得て来年四月に開講する予定です。さらに、その翌年の二〇一八年をめざして、東京都港区赤坂に大学院などの新たなキャンパスを設置する計画もあります。本学はまさに、医療福祉の総合大学として新たな飛躍を遂げる時期を迎えています。

迎えています。

さて、わが国は、国民の四人に一人が高齢者という文字通りの超高齢社会になりました。介護を必要とする人の数は六〇〇万人を超え、しかもその半数近くの方々が認知症になっていっているとされています。そのような方々を支え、今後増え続けると予測される要介護者の数を抑制するためには、生活習慣などを改善し疾病を予防して健康寿命を延伸し、高齢者の自立度の低下を防ぐことが重要です。それと同時に、介護にあたる医療福祉専門職が協調して、高齢者を包括的にケアすることが大切です。

医師、看護師、リハビリテーション専門職、介護専門職などの医療福祉専門職は、団塊の世代が七五歳以上になる二〇二五年までに、少なくとも一五〇万人から二〇〇万人がさらに必要とされており、専門職の養成は急務です。本学の果たす社会的な使命は今後ますます大きくなるといえます。

このような視点から、本学では関連職種連携教育に重点的に取り組んでおり、高度な知識と技術の修得ばかりでなく、時代のニーズに沿った幅広い視野を持った包括的ケアができる医療福祉の専門職を育成しています。学生の皆さんは各分野の第一人者である教授陣のもと、充実した附属病院や関連施設が備わった本学で訓練を積み、社会が求める医療人として今後活躍されることを、心より期待しております。

国際医療福祉大学大学院長

天野 隆弘



新春のご挨拶を申し上げます。

創立二〇周年を迎えた私ども国際医療福祉大学にとって、今年さらなる飛躍を遂げる年になるでしょう。

四月には、成田市公津の杜駅前に成田キャンパスが新たに開設され、看護学部看護学科と、保健医療学部として理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、医学検査学科の二学部五学科さらには七つ目となる大学院キャンパスが新設されます。

また、昨年の一二月二六日に、政府の国家戦略特別区域会議で、我が国国際医療福祉大学が、成田市と共同で提案していた「国家戦略特区における国際対応の医学部新設」の区域計画が承認され、翌二七日にこの計画が内閣総理大臣によって認定されました。本学は医療福祉系の大学として、さまざまな医療福祉専門職を数多く輩出し、卒業生は約一八〇〇〇人に上ります。医学

部設立により、文字通り医療福祉専門職を養成する総合大学となります。政府から求められている二〇一七年四月の医学部開設をめざし、関係者一同、三月末までの文部科学省への医学部申請に向かい努力しています。

この成田キャンパスには、公衆衛生大学院も併せて設置されることになっています。さらに、医学部開設の翌年には、東京赤坂の地に新たな大学院キャンパスも計画されています。

昨年、大学院に医療福祉教育・管理分野が新設されました。また、昨年一〇月から、特定行為に係る看護師の養成が正式に認められ、旧ナースプラクティショナー養成分野は新たに、厚生労働省令に基づく二区分三行のすべての特定行為を教育できる「特定行為看護師養成分野」となりました。このように、大学はもとより、大学院が益々発展する新たな道を皆様とともに歩んでいきたいと思います。

高齢化が進みます進み、社会問題となっている日本の社会的ニーズに合うべく、医療福祉系の大学・大学院は、今後ますます重要な役割を果たします。時代の変化を先取りして対応する大学の新分野・コースを今後も立ち上げ、この方面のリーダーを育成することは、本学大学院の重要な役割であると考えています。皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【平成27年度 学位記授与式】

■学部/大学院 学位記授与式

- ・大田原キャンパス=学部/大学院
平成28年3月9日(水) 10:20~ 体育館
- ・小田原キャンパス=学部/大学院
平成28年3月11日(金) 10:20~ 本校舎 講堂・ラウンジ
- ・福岡キャンパス/大川キャンパス=学部/大学院
平成28年3月7日(月) 13:00~
福岡国際医療福祉学院 体育館

■大学院 学位記伝達式・修了生歓送会

- ・東京青山キャンパス(東京青山/小田原/熱海)
平成28年3月12日(土) 16:30~
東京青山キャンパス 5Fホール

■卒業式

- ・塩谷看護専門学校
平成28年3月4日(金) 10:00~ 講堂

【平成28年度 入学式】

■学部/大学院 入学式

- ・大田原キャンパス=学部/大学院
平成28年4月2日(土) 10:20~ 体育館
- ・成田キャンパス=学部
平成28年4月4日(月) 10:20~ 体育館
- ・小田原キャンパス=学部/大学院
平成28年4月5日(火) 10:20~ 城内校舎 体育館
- ・福岡キャンパス/大川キャンパス=学部/大学院
平成28年4月6日(水) 11:00~
大川キャンパス 講堂

■大学院 新入生歓迎会

- ・東京青山キャンパス(成田/東京青山/小田原/熱海)
平成28年4月3日(日) 13:00~
東京青山キャンパス 5Fホール

■入学式

- ・塩谷看護専門学校
平成28年4月7日(木) 10:00~ 講堂

北島学長が万国外科学会の
Court of honor(名誉会議)
メンバーに就任

昨年八月にタイで開催された第四六回万国外科学会の総会において、北島政樹学長が万国外科学会のCourt of honor(名誉会議)メンバーに任命された。

万国外科学会はノーベル医学生理学賞を受賞したスイスのテオドール・コッヘル教授によって一九〇二年に創設された世界最古の国際外科学会であり、初めての国際的規模の学術集会となった第一回総会は一九〇五年にベルギーで開催された。北島学長はカナダで開催された第四二回万国外科学会では会長を務めている。二〇〇一年には創立一〇〇周年の記念大会がベルギーで開催され、北島学長が行った「二世紀の外科」という講演がきっかけとなり、世界最高峰の医学雑誌「New England Journal of Medicine」から日本人として二人目の編集委員に抜擢された。こうした長年の国際的な実績と貢献が高く評価され、フィンランドで開催された第四五回万国外科学会では名誉会員に選ばれるとともに、世界の若手外科医の活動を奨励する「Krajinna Prize」が創設された。

今般北島学長が任命されたCourt of honorは、世界で三人のメンバーから構成される万国外科学会内で最大の裁決権を持つ組織だ。一〇〇年もの歴史と伝統を持つ当学会において非常に重要な役職であり、日本の外科分野の成果を発信していくのみならず、世界における外科分野でのリーダーシップが期待されている。

特集1 新春のごあいさつ

- 2 国際医療福祉大学・高邦会グループ理事長 高木 邦格
- 3 国際医療福祉大学学長 北島 政樹
- 4 国際医療福祉大学総長 矢崎 義雄
- 5 国際医療福祉大学大学院長 天野 隆弘
- 6 学位記授与式、入学式の日程

特集2 卒業研究発表会

特集3 学生&企業研究発表会

キャンパスレポート

- 8 成田キャンパス/小田原キャンパス/福岡キャンパス/
12 大川キャンパス/大学院/塩谷看護専門学校

トピックス

- 13 松谷有希雄副学長 就任のごあいさつ/ラオス国立健康科学大
15 学と学術交流協定を締結/ベトナムのハノイ医科大学・ホーチ
ミン市医科薬科大学が本学を来訪/まちなか学校出前講座「初
めて学ぶ韓国語 -意外と知らない身近な外国語-」開催/那須塩
原ハーフマラソン大会に国際医療福祉大学病院の名入りゼッケ
ンが登場/ボランティアセンター「10年を振り返って」/第6回
「共に生きる社会」めざして高校生作文コンテスト 表彰式開催
15 留学生が見た 母国と日本の保健福祉事情

施設インフォメーション 新春のごあいさつ

- 16 国際医療福祉大学病院病院長 桃井 眞里子
国際医療福祉大学塩谷病院病院長 福井 康之
国際医療福祉大学三田病院病院長 小川 聡
国際医療福祉大学熱海病院病院長 佐藤 哲夫
- 17 国際医療福祉リハビリテーションセンターセンター長 下泉 秀夫
新宿けやき園施設長 中谷 肇一
山王病院病院長 堤 治
化学療法研究所附属病院病院長 西野 卓
高木病院病院長 岩坂 剛

- 18 同窓会通信
- 19 生涯学習のご案内

- 20 学生投稿ページ

大田原キャンパス 卒業研究発表会

医療福祉・マネジメント学科

一月六日、四年生による卒業研究発表会を行った。六教室にわかれ、ひとり一〇分で、卒業研究の要旨を報告した。教員や三年生からの質問・コメントに対して返答に窮する場面も見られたが、四年間の集大成でもあり、自分でテーマを決めて成し遂げたものは大きく、研究した分野の専門家としての説明がなされていた。



●毎年制作している「卒業論文要旨集」

発表会の最後には、四年生から三年生へ向けて、「卒業研究に取り組むのは、国家試験の勉強や就職活動、実習などと並行して行わなければならない、苦労することも多かったが、取り組んでよかった。ぜひみなさんも取り組んでほしい」のメッセージが伝えられた。

(助教 木村秀)

言語聴覚学科

二月三日、卒業研究発表会を開催した。学科教員の指導のもと、各々が臨床実習や国家試験対策の忙しい合間を縫って、研究計画の立案・データ収集・卒業論文作成を行い、この日を迎えた。



●ポスター発表のひとつ

会場には三年生も集まり、それぞれのブースで活発なディスカッションが行われ、質疑応答にこぎつといた表情が印象的だった。秀逸なプレゼンテーションを聞き、三年生は来年に向けて大きな刺激を得たようだ。教員も四年生の成長を感じた一日であった。興味深いテーマも多く、卒業後もそれぞれの場所で、知的探究心と思いやりの心を忘れない、言語聴覚領域発展の一翼を担ってくださることを期待したい。

(助手 落合勇人)

視機能療法学科

二月一日、二・三年生と教員参加のもと、第一期生の卒業研究発表会を開催した。四年生は二週間の臨地実習

に加え、実習報告会、卒業試験や講義、就職活動等で多忙な学生生活の中、三六名のグループにわかれて、自らテーマを設定し、指導教員に相談しながら実験計画を練り、試行錯誤しながら実験結果を検討した。



●発表を終え晴れやかな表情を見せる4年生

今年度は一〇件の研究課題が発表され、三次元映像や携帯ゲーム機の視機能・眼球運動への影響、心理課題やブルーライトの瞳孔への影響、事象関連電位、生理的眼振・瞬目の解析、回旋融像、コインタクトレンズケアなど、臨床研究から神経眼科領域の基礎研究まで多岐にわたる充実した内容であった。

(教授 原直人)

放射線・情報科学科

四年生全員が四月から一五名の教員のもとで、グループ指導を受けつつ各々の研究テーマを定めて卒業研究を進めてきた。この間、通常の講義のほか、国家試験対策や就職活動も並行しながらの研究活動であったが、全員が成果を口頭発表やポスター発表にまとめることができた。



●優秀発表の受賞者(前列:口述発表、後列:ポスター発表)

一月二日、その成果を発表する「卒業研究発表会」を〇棟一〇一教室とロビーで開催した。発表会には、来年度の当事者である三年生全員と、研究活動の様子を知るために一年生全員も参加し、総勢四〇〇人近い参加者で会場は満杯となった。

(教授 西木雅行)

第12回 学生&企業研究発表会

一月二八日、宇都宮共和大学宇都宮キャンパスで、「第一二回学生&企業研究発表会」が開催された。この催しは大学コンソーシアムとちぎが主催し、県内の大学が一堂に会して、「地域社会活性化」、「環境エネルギー」、「ものづくり」、「医学・医療・福祉」の四つの異なる分野で、学生が主体となつて行った日頃の研究や活動内容を発表しあう研究発表会で、栃木ならではのユニークなイベントである。



●「医学・医療・福祉分野」の口頭発表審査会場

午前中に行われた分野別の研究発表審査会に続いて、午後には各賞の選考会と表彰式が行われた。県内一の大学および専門学校から全分野計七六件の発表のうち、本学からは、「医学・医療・福祉分野」に五チーム、ポスター発表に一チームの合

計六チームがエントリーした。

最優秀賞(知事賞)は「環境エネルギー分野」から「ガウス過程を用いた高速な屋内環境の磁場マッピングとその磁場地図を用いた自己位置推定」を発表した宇都宮大学工学研究科システム創成工学専攻の学生が受賞したが、本学も企業賞のひとつである「獨協医科大学学長賞」を受賞するなど、よく健闘した。

(以下、受賞者敬称略)

【医学・医療・福祉分野】

獨協医科大学学長賞

「聴覚障害者の早口音声聴取について」

保健医療学専攻言語聴覚分野 坂本圭



●獨協医科大学学長賞を受賞した坂本さんの発表場面

奨励賞

「コンタクトレンズケアの実態」

視機能療法学科四年 斎藤僚太(発表者)・飯島由佳・飯島里佳・卯柳智美・大槻梨加・加藤優季・小池由記・横田里美

「新たなうつ病・適応障害治療薬の開発を目指して①」

ストレス適応障害モデルマウスに対するヒストン脱アセチル化酵素阻害薬の効果」

薬学科薬理学分野五年

金沢のぞみ(発表者)・浅沼潮・生方沙紀・川崎智世・小宮健人・近藤真也・柴崎真里那

「新たなうつ病・適応障害治療薬の開発を目指して②」

ストレス適応および適応障害モデルマウスの脳内における5-HT1A受容体細胞内分布の解析」

薬学科薬理学分野五年

福田悠真(発表者)・新井崇紘・大村光・平良奈菜・田中雅宏・廣田賢志・秋山眞太郎

「小児の中耳炎発症と治療に及ぼす影響因子に関する研究」

栃木県北地域を題材に」

薬学科医療薬学分野六年 渡邊理基(発表者)・勝山繁佳・倉永勇希・市山一樹・本木絵梨奈

【ポスター発表】

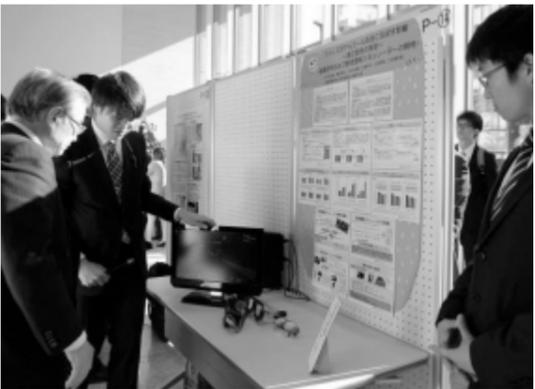
奨励賞

「ストレスがアルコール依存に及ぼす影響」

適正飲酒の推進」基礎研究および飲酒運転シミュレーターの開発」

薬学科中毒学分野五年

沖田英慎(発表者)・嘉村亮祐・和賀彩可・江田沙那恵・山田朋美・江田香奈美



●奨励賞を受賞した沖田さんの発表場面

(大田原キャンパス総務課 豊島功)

成田

第2回 キャンパスレポート

新キャンパスの施設紹介

成田キャンパスは、昨年一月に校舎が竣工し、四月の開設に向けて着々と準備を進めています。

1階

■アートギャラリー 工芸作家の半谷学氏による作品を設置。ファイバー製の大きな三本の木は本学の基本理念を表現している。
■図書館 各学科の専門図書および一般図書の洋書と和書を豊富に揃えている。展示コーナー、映像コーナー、新聞・雑誌のブラウジングコーナーも設置している。

2階

■特大講義室 二八五席×二室(パーティション開放で二部室にもなる)。それぞれに100インチのスクリーンとプロジェクター四台を配置した最大の講義室。同時双方向遠隔システムにより、他キャンパスとの合同授業にも活用する。
■国際交流室 留学生の学術的活動および日常生活の支援や、全員必修の海外研修に付随する業務などを行う。

3階

■ウェルカムホール 応接室・大会議室への来訪者を受け入れるエントランスホールとして、受付とクロックを設置。落ち着いた雰囲気のある優雅なおもてなしスペース。
■学生相談室 学生が抱えるさまざまな悩みを相談できる場所。

4階 看護学部

■ナースングスキルラボ 基礎から専門領域まで、対象に応じた看護技術を学ぶことができる。ベッド四〇床を揃え、少人数単位で技術演習ができる環境。最新鋭のフィジカルアセスメントモデルなども配備。iPadを用いて、学生自ら、実施した技術を評価しながら技術練習を行い、スキルを高めていくなど、先進的な技術教育を行う。
■ナースングプラクティスラボ 臨床現場における看護技術の開発や応用、検証などに向け、看護技術の動作解析や実験を行う。将来的には看護ロボットなど看護人間工学的な実験・研究も想定。講義・演習のほか、各学年のプロジェクト科目や学生の主体的な利用も可能。
■体育館 五階建てのB棟四階が入口。壁面はフットサル用に施工。入学式の模様は特大講義室のモニターに配信する予定。

5階 理学療法学科

■運動療法室 評価や治療に必要な高度で最新の機器、トレッドミルや自転車エルゴメータ、呼吸ガス分析装置を設置。運動に対する生体反応を客観的に捉え、最先端の運動生理学的理論に基づいた実習を行う。
■運動実習室 人間のさまざまな動作

を座標点の軌跡に変換し、数値化して分析できる三次元動作解析システム「パソコン」や身体運動を解析するための最新の機器「床反力計」などを備える。

6階 大・中・小講義室

大講義室一、中講義室四、小講義室八を備え、座学のメイン施設となる。

7階 言語聴覚学科・作業療法学科

■聴力検査室 聴力検査に際しては、静穏な環境の保持が求められる一方、ときには大きな音を呈示する必要があるため、音の遮蔽効率が高い造りになっている。
■電気生理室 電磁波ならびに室外音を遮断するシールドルームで、脳波などの電気生理学的計測に適した造りになっている。

作業療法学科

■生活技術室 在宅復帰後の家庭を再現でき、日常生活に必要な入浴や調理、排泄などの動作の評価・治療を学ぶ。眼球運動や呼吸で、テレビやエアコンといった家電を操作できる環境制御装置なども設置。近隣の障害を持った方を招いた演習や実習も行う。
■作業技術室 作業療法で用いる陶芸や木工、織物などの作業活動が、どのような効果をもたらすかを筋電図や脳波などによって確認する。

8階 医学検査学科

■細菌・病理 血液検査実習室(形態系) 細菌・病理・血液検査・尿検査の形態学的な実習を行う。細菌・血液細胞や組織の染色

第37回 小田原

キャンパスレポート

記念すべき第一〇回!

小田原キャンパスは、昨春、一〇期生が入学し、さまざまな行事が第一〇回という節目を迎えた。

1 第一〇回潮風祭

一〇月一〇日、小田原キャンパスにて第一〇回潮風祭を開催した。今年度は学生全員からテーマを募集し、記念すべき第一〇回が誰にでも伝わるよう、「10(ten)をちりばめた「笑顔点灯」(10ten満tenの潮風祭)」が選ばれた。

一日目には教育後援会会員の集いの特別講演が行われた。今年度は講師として本学大学院教授 大熊由紀子先生による「老いて美しく、家族の愛をこわさないために」(北歐で、そして、独り暮らし九五歳の母をこの夏に看取って)と題した講演があり、参加者はノーマライゼーション先進国であるデンマークの様子を伝える話を興味深く聞いていた。

毎年実施している学科企画では実行委員の発案で、「三学科合同企画」を計画した。「関連職種連携について学ぶのは二年生の後期であり、まだ胸を張れるような企画ではないかもしれないが、看護・理学療法・作業療法の三学科がそれぞれ



●みんなで盛り上げた屋台

の専門性を生かしつつ協力することの大切さを来場者の方にお見せしたい」と、同じフロアでの三学科合同企画にチャレンジした。
各学科一、二年生・学友会・部活動による屋台出店やステージでの企画は、来場者はもちろん、自分たちも潮風祭で「笑顔を点灯させたい」という熱気に溢れていた。
後夜祭では、軽音部の演奏から始まり、各企画の表彰、恒例になった学科ムービー、長縄企画、ダンス部の発表と、限られた時間の中で潮風祭の最後を堪能したという学生が想像が凝縮していた。
最後に実行委員全員がステージに上がり、盛大な拍手を浴びた。実行委員長の前林晃輔さんが、「記念すべき第一〇回の潮風祭、みんなの笑顔が見られて本当によかった!」と喜びの言葉を涙とともに語り、さらに大きな拍手が沸き起こった。昨年の潮風祭終了直後から一年かけて、工夫し苦勞しながら一、二年生全員で潮風祭を

作り上げた達成感で、学生たちの顔には一〇点満点の笑顔が点灯していた。

2 第一〇回スポーツ大会

一月二二日、学生も一生懸命整備した城内校舎グラウンドで、第一〇回スポーツ大会を開催した。
多くの学生が楽しめるようにと実行委員が話し合い、実施種目を昨年の五種目から九種目に倍増させた。分刻みのスケジュールで全員フル活動。学科対抗リレーの前に必勝を誓う陣の向こう側には、夕日がきれいに輝いていた。



●チームワークが決め手のハリケーン

記念すべき第一〇回の潮風祭、スポーツ大会と、行事が続いた二か月、学生の顔には大きな成長がみられた。

(学務課 佐藤浩子)

市民公開講座

一〇月三十一日、小田原キャンパスでは、市民公開講座「測って知ろう今の健康そして伸ばそう健康寿命二〇一五」を



●片脚立位時間測定を体験する一般来場者

二四六名が来場され、「充実した内容で大満足です」、「今後も健康に関する講座を期待しています」といった声が寄せられた。今後も地域のニーズに合わせた市民公開講座を企画し、地域貢献を果たしていきたい。

(総務課 高久晃)



設備と顕微鏡また病理標本の作製と薄切標本の切り出し、細菌の各種培養用の孵卵器の設備、セーフティキャビネットを用いたの細菌実習及び細菌の滅菌装置を備える。
■生化学・免疫・臨床化学・公衆衛生・遺伝子実習室(定量系) 生体成分の定量検査の実習を行う。電子天秤、pHメータ、分光光度計や質量分析装置などの設備により分析技術を身につける。

9階 屋上

■屋上テラス 市街地を望み、東には成田山新勝寺と成田空港を飛越す飛行機が見える。
■展望ラウンジ ガラス張りの展望スペース。
■大学院研究室 他キャンパスと結ぶ同時双方向遠隔システムを整備する予定。

(広報係 原誠二)

第27回 福岡

キャンパスレポート

地域交流委員による BLS活動

福岡看護学部では地域交流委員と有志学生によるBLS（一次救命処置）普及活動の実現をめざしている。三年生は各論実習、四年生は国家試験勉強に忙しいため、一・二年生が中心である。これまで、DVD視聴、テキストを使った基本的知識の習得、シミュレーターを使った実技練習を行ってきた。

一〇月二〇日に開催した「蓮翔祭」では、「あなたにも救える命があります」というテーマでBLSの体験コーナーを企画運営し、訪れた高校生・保護者・在校生に対して熱心にBLSの指導を行った。

活用しているシミュレーターは、「平成二六年度私立大学等教育研究活性化設備整備事業」で導入されたもので、高機能を備えている。自分が行った胸骨圧迫がどれだけ効果的に実践できているかを百分率で表示してくれる。BLS練習をしてきた学生のほとんどは九〇%以上、中には一〇〇%に達する学生もいる。参加した高校生の多くは、初体験であったが、その数字を競うように何度も胸骨圧迫を行う姿があった。地域交流委員の学生が実践を交えて、圧迫部位や肘を伸ばした姿勢、圧迫リ



●高校生にAEDの実技指導を行った

ズムなどを指導することで高得点が取れるようになっていった。また、AED（自動体外式除細動器）では、参加者のほとんどが経験の有無に関わらず、音声に合わせて一つひとつの行為を実践できていた。指導を担当する学生たちは、笑顔で丁寧な説明を行い、参加者からの「ありがとうございます」との声を「の声を得たようである。」

今後も地域交流委員でのBLSの練習を継続するとともに、他の学生にも練習への参加を呼び掛けたい。また、福岡山王病院で毎月行われているBLS研修にも参加の調整をさせていただき、より実践的な技術習得ができるよう計画予定である。そして近い将来、実際に地域に出かけBLS普及活動を通して地域貢献できることを期待している。

（地域交流委員長 川口賀津子）

大学間連携事業での学生の報告

福岡看護学部は、九州・沖縄の看護系大学八校とステークホルダー五施設

が連携して行う大学間連携共同教育推進事業「多価値尊重社会の実現に寄与する学生を養成する教育共同体の構築」（文科省・大学改革推進等補助金）に取り組んでいる。この事業は平成二四年度から五年間の計画で行われており、今年行われた中間評価では最高区分の「S」評価（計画を超えた取り組みであり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる）が得られ、今後が期待されている活動である。

この取り組みでは、各連携大学の特微科目を相互受講および単位互換できるシステムを構築したり、卒業生やスペシャリストと交流できるナーシング・キャリアカフェ（以下、NCC）を福岡と沖縄の各地で毎月開催するほか、国際協力看護、災害看護という座学が主体となる領域に特化し、ステークホルダーと共同して合同短期研修を実施している。このような機会を連携大学の学生も活発に利用し、これまでにNCCに参加した学生は約千名、合同短期研修には百名強の学生が参加している（ともに延べ数）。

本学部の学生もこの機会を積極的に利用しており、一二月に福岡で行われたNCCでは、これまでに三回実施された国立国際医療研究センター病院（東京・新宿区）への合同短期研修に参加した連携大学の学生から三組五名が代表として報告を行ったが、そのうち一名が本学部三年生で留学生の孫銘路（ソ・メヒロ）さんであった。孫さんの



●ナーシング・キャリアカフェでの報告の様子

報告は、①日本に来る前に思った国際看護、②日本に来て思った国際看護、③合同短期研修に参加して思った国際看護、④本学の海外研修に参加して思った国際看護、⑤これから自分に必要だと思う国際看護、といった内容から構成されており、聴講している学生や教員からも高評価を得る内容であった。実は、孫さん本人から「パワーポイントを使って報告したい」という相談を受けたのが発表の三日前であった。短い準備期間の中で十分な内容に仕上げることができた。このように一抹の不安を感じながら当日を迎えることになったが、内容の構成やパワーポイントの見やすさ、話す内容など非常に工夫しており、熟考しながら作成したのが伝わってくる素晴らしい出来で、安堵とともに驚嘆させられることになった。

（看護学科 准教授 中山晃志）

第41回 大川

キャンパスレポート

平成二七年度 地域公開講座を開催

大川キャンパスでは、本学の持つ教育・研究機能を広く社会へ開放する生涯学習の展開と地域への貢献を目的とする活動を積極的に推進し、「社会に開かれた大学」として、地域の方々を対象とした地域公開講座を実施している。今年度は三回開講し、地元大川市をはじめ、九〇名を超える地域の方々にご参加いただいた。

◆第一回 一〇月二七日 「健康維持のための運動法」膝痛・認知症予防」（講師：高野吉朗 理学療法学科准教授）

一〇年先、病気になる、家族に迷惑をかけるに健康で過ごすためには、今、何をすべきか？膝痛や認知症に對して、予防の視点から運動や生活習慣についてわかりやすく説明した。参加者からは「実技を取り入れ、わかりやすく参考になった」などの声



●実技指導がわかりやすかったと好評

◆第二回 一二月二日 「子どもたちの個性を育む」豊かな心を求めて」（講師：日田勝子 作業療法学科准教授）

◆第三回 一二月五日 「意識がない！その時あなたは!」（講師：後藤純信 作業療法学科教授、檜垣賢作 高木病院救急医療部部長）

意識障害が起こる病態とその見分け方や救急処置、救急医療の実践について説明した。傷病者の命を救い、社会復帰に導くために必要な一連の行動において迅速な心肺蘇生が重要である。講演後、大川市消防署職員による胸骨圧迫とAED操作の心肺蘇生法の実演実技指導があった。「貴重な経験となった」という声も多く、いざという時の対処法を学んだ。



●子育て・孫育てのアドバイスをする日田准教授



●AED操作の実技指導を受ける参加者

理学療法学科 卒業研究発表会を開催

一〇月二日、理学療法学科四年生（第八期生）の卒業研究発表会を開催した。今年はずべての演題をポスター発表形式

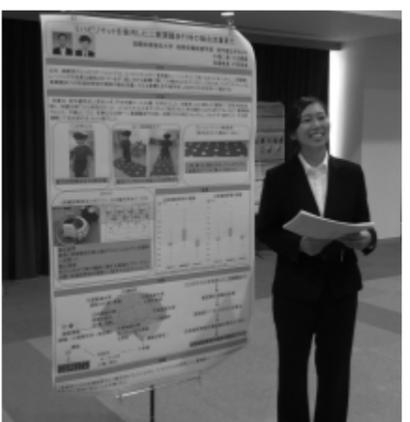


●大川市の歩道調査—大川市の福祉マップ作成—

式とした。卒業研究は選択科目であるが、昨年と同様、四年生全員が卒業研究を履修した。四年次前期からそれぞれ関心のある領域ごとに二のグループにわかれ、指導教員のもと、研究テーマの立案から文献の精査、データ収集といった研究活動に励んだ。

発表会は、各グループが時間ごとに

ローテーションで各演題を回っていく形式で行った。発表は二二演題で、分野も多岐にわたり、興味深い演題も多数あった。参加者全員がすべての発表を聴くことができたため、活発な質疑応答が行われた。実習期間であった三年生も多数参加し、研究の大変さや面白さを垣間見るよい機会になったようだ。



●「リハビリマットを使用した二重課題歩行時の脳血流変化」

最後は、参加者全員が、自分が最も良かったと思う演題に投票し、優秀演題賞を選んだ。最優秀演題賞には、「Warming upが位置覚に及ぼす経時的変化について」が選ばれたが、その他の演題も甲乙つけがたく、各グループが、日夜努力してきたことが伝わる内容の濃い発表会であった。

昨年に続き、四年生全員が卒業研究を履修し、一端とはいえ研究手法について学んだことは、臨床に出てからの大きな糧になると確信している。この卒業研究を通して学んだことを生かし、今後も、研究を続けてほしいと願う。

（理学療法学科 助教 川崎東太）

第11回 大学院

キャンパスレポート

臨床検査学分野を開設

大学院の保健医療学専攻では平成二八年度より、臨床検査学分野を新たに開設する。臨床検査技術の高度化に伴い、多くの疾患に対して先進的な検査技術が導入されているなかで、より安全で質の高い医療を提供する研究者の育成をめざす。平成二七年七月に高木病院に開設された「臨床微生物・遺伝子検査研究センター」と連携するなど、より最先端の臨床的・基礎的研究に取り組むための環境も整備された。

大学院入試に向けて

最終出願受付締め切りを二月九日に控え、各分野・専攻では入学説明会・相談会を多数実施している。

■診療情報アナリスト養成分野

一月二九日に、東京青山キャンパス五階ホールにて講演会・進学相談会を開催した。講演会のテーマは「病院運営に求められる診療情報の分析と活用」のあり方―DPCデータ、がん登録データの可視化により病院実務データを再考する―。本講演会は今回で第八回を数える。当日は一三六名が参加し、講演後には希望者を対象に進学説明会を行った。

■医療経営管理分野

一月二二日と二二日、医療経営戦略コース（h1MBAコース）の説明会を開催した。両日とも、第一部は「明日の医療経営の展望とh1MBAの必要性」と題し、分野責任者の武藤正樹教授によるごあいさつとコース内のプログラムの紹介を行い、第二部では模擬授業と相談会を実施した。

■臨床心理学専攻

第一回目の専攻説明会を九月二二日の大学院全体のオープンキャンパス内で開催した。カリキュラム説明、入試説明、教員による相談会という内容に、五〇名近い参加者が熱心に聞き入った。

■助産学分野

大田原（八月、二月）と福岡（九月、二月）でオープンキャンパスを開催した。カリキュラム説明と入試説明の後、教員、卒業生、在学生を交えた昼食会をはさんで、相談会を実施した。次年度入試に向けた出願もこれからピークを迎える。出願を検討されている方は、大学院ホームページにて情報を確認していただきたい。

（大学院運営室 近納一重）



●診療情報アナリスト養成分野講演会の様子

第19回 塩谷看護専門学校

キャンパスレポート

八汐祭

一月二八日、「八汐祭」を開催した。今年のテーマは、「生活習慣病予防」。このテーマに沿って、学生は、豆腐パンケーキやレンコン、きのこなど食物繊維の多い食材で作ったカレラライスなど、「ポリウム満点、ヘルシー」をモットーに、工夫を凝らした食事を提供した。企画展示では、学年ごとに、劇やクイズなど、生活習慣病やその予防法の説明をした。学年の垣根を越えた混合チームは「AED体験」、「ハンドマッサージ体験」などの体験型の催しで参加者を楽しませた。今年もフリースタイルバスケットボールのユニット「トミー&ヴァース」をスベシャルゲストに迎え、会場を盛り上げた。八汐祭は、実行委員会を中心に二年生がリーダーシップをとり、全学生が一丸となって企画・運営する。天候に恵まれて多くの来場者数があり、成功を収めた。



看護の誓いの式

二月一日、「看護の誓いの式」を開催した。昨年入学した一〇回生四三名が一人ずつナイチンゲールの像から自分のキャンデルに灯火を移し、全員で「ナイチンゲール誓詞」を唱和した。課題や試験に追われるなか、この日のために朝早く登校し、「ナイチンゲール誓詞」を練習したり、教員の指導のもと、歩き方やキャンデルの持ち方を何度も練習したりした。その甲斐あって、一糸乱れぬ進行を見せ、厳かな式となった。



（教務部 佐藤信子）

副学長 就任のごあいさつ

昨年二月一日より、国際医療福祉大学に松谷有希雄副学長が就任されましたので、ご挨拶をご紹介します。

国際医療福祉大学 副学長 松谷 有希雄



北海道大学医学部卒。ピッツバーグ大学公衆衛生大学院修了。厚生労働省医政局長、国立療養所多磨全生園長、国立保健医療科学院長を歴任。

この度、副学長に就任いたしました。どうぞよろしくお申し上げます。

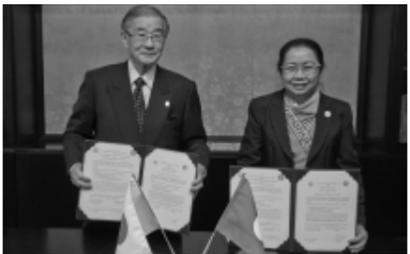
元来は小児科医ですが、公衆衛生を修めて厚生省（当時）に入省し、本学初代学長の大谷藤郎先生および谷修一名誉学長より直接指導を受けました。二〇〇五年からは医政局長を務め、その後、国立ハンセン病療養所の多磨全生園長、および国立公衆衛生院と国立医療・病院管理研究所の後身である国立保健医療科学院の院長を務めました。

本学は、医療福祉の専門職を大学レベルで育てるとの国の構想を背景に開学し、二〇年の発展の歴史を刻みました。四月からは二学部五学科を擁する成田キャンパスが開設され、国際医療拠点としての医学部設置に向けた準備も進められています。これを機に、「チーム医療・チームケア」に貢献し、国内外で活躍できる優れたリーダーの育成をめざしたいと考えております。

国際トピックス

ラオス国立健康科学大学と学術交流協定を締結

本学は、ラオスで唯一の医学部を持つラオス国立健康科学大学と学術交流協定を締結。これに合わせ一月八日から二二日まで、同大のソムット・ブパ学長、および同大附属セターイラート病院のカンペ・パンサバット病院長等四名を招聘した。一〇日に本校で行った調印式では、ラオス側からそれぞれ施設が紹介された後、北島政樹学長とブパ学長によるご挨拶と、今後の協力関係の構築について意見交換が行われた。ブパ学長は今後、積極的に本学との連携・友好関係を構築したいという意向を示された。



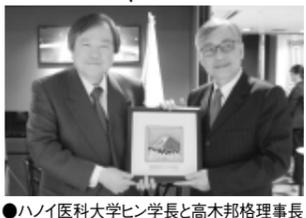
●大田原キャンパスにおいて交流協定が締結された

一行は滞在中、東京地区と栃木地区の本学キャンパスおよび医療福祉施設等を視察。医療サービスの質の高さや医療設備・教育環境のすばらしさなどに感心されるとともに、日本の医療制度や医学教育システムについても熱心に質問されていた。

（総務企画部秘書室 山岸洋子）

ベトナムのハノイ医科大学・ホーチミン市医科薬科大学が本学を来訪

二月七日から二二日までの日程で、ベトナムでトップクラスの大学であるハノイ医科大学の視察団が、本学関連施設を訪問。同大学とは昨年三月に学術交流協定を締結している。ゲン・ドゥック・ヒン学長、同大学附属病院のフアン・ドゥック・クワン病院長他一行は、医学部の新設を計画する本学とさらなる交流の推進に向けた協議を行うとともに、先進的な医療施設等を視察するため来日された。北島政樹学長や各学部長・学科長等と教育カリキュラムに関して積極的に意見を交わすとともに、高木邦格理事長との協議では、ベトナムにおける医療人材育成に向けた協力要請があった。



●ハノイ医科大学ヒン学長と高木邦格理事長



●看護学習用シミュレーション機器を視察するトウアン学長

さらには一月には、同じく協定校のホーチミン市医科薬科大学のチャンディエブ・トウアン学長が初めて本学を訪問された。本校や東京・栃木地区の医療施設に加え、竣工間もない成田キャンパスも視察され、看護教育を中心とした関係強化について協力要請があった。

（国際部）

まちなか学校出前講座 「初めて学ぶ韓国語―意外と知らない身近な外国語―」開催

本学の地域貢献の一環として、本年度も総合教育センター所属の語学教員による外国語講座を実施した。ただし、これまで英語が主であったことを鑑みて、今回は、(一)日常生活では接する機会が少ない英語以外の第二外国語を提供する、(二)一般市民の方々が気軽に参加できるように学外の公共施設にて開講する、という点に絞って講座を企画した。幸いにも大田原市より積極的なご協力を賜り、同市中心部に位置する市民交流センターの「トコトコおたわら」を会場として、一月から二二日まで計四回開講した。



●ハングル文字の構成を解説する福井准教授

受講生は地元大田原市のほか、那須塩原市からも多数参加。世代性別を問わず全ての方が毎回、平日の夜一時間という限られた中でも熱心に学ばれている姿はとても印象的であった。「四回があつという間」、「小話がとても面白い」、「中級、上級もあるとありがたい」といった感想をいただき、改めて感謝申し上げますとともに、今後もこのような企画を続けていきたいという思いを強くしました。

（語学教育部 准教授 福井謙）

那須塩原ハーフマラソン大会に 国際医療福祉大学病院の 名入りゼッケンが登場



●国際医療福祉大学病院の名入りゼッケンが町を駆け抜けた

一月三日、第一〇回那須塩原ハーフマラソンが開催された。市制一〇周年の節目の今年は、約二三〇〇人のランナーが参加した。
特に今回は、五キロ、三キロ、二キロ、一キロの各種目とファミリーの部で、念願であった当院の名入りゼッケンが街中を駆け抜けた。沿道で応援する観客にも広く当院をアピールすることができ、イメージアップに貢献したと期待される。
当院からも医師四名のほか、多くのスタッフがランナーとして参加し、全員無事に完走した。さらに、大田原キャンパスの学生や教職員も多数参加した。スタート地点では、ゲストラランナーの猫ひろしさんがお決まりの掛け声で会場を盛り上げ、和やかな雰囲気の中で参加者は思い思いに汗を流した。当院の保健師がボランティアで出展した保健相談ブースも参加者から大好評で、ここでも当院のイメージアップに大きく貢献した。

(総務企画課 高橋正人)

第六回「共に生きる社会」めざして 高校生作文コンテスト表彰式開催



●受賞作品を朗読する最優秀賞の青木さん

本学と毎日新聞社の共催による「共に生きる社会」めざして高校生作文コンテストは六年目を迎え、今年も全国から一五〇点の作品が寄せられ、一次審査最終審査を経て、最優秀賞一点、優秀賞二点、佳作二点、入選五点、学校賞七校が選ばれた。
一月二日、秋晴れのもと、大田原キャンパスで表彰式が行われた。式典の前に、「脳の話」不思議で大切な宝物」と題して糸山泰人副学長の特別講演があり、一般来場者や在学生が多数詰めかけた。脳の仕組みや働きを症例や治療法を挙げ、図や写真を用いてわかりやすく解説した。

表彰式には、最優秀賞、優秀賞、佳作に入賞した四名の高校生と保護者、担当教諭、ならびに、学校賞を受賞した高校の教諭が招待された。北島政樹学長の主催者あいさつ、毎日新聞社編集委員の冠木雅夫様の作品講評に続き、北島学長から受賞者に賞状



●表彰式に出席された受賞者の皆さん

ボランティアセンター一〇周年

二〇〇五年一月月にIUHWボランティアセンター(以下VC)が開設されてから丸一〇年を迎えた。本学は開学当初から学生のボランティア活動が盛んであった。地域の障がい者施設での活動や学内での献血推進活動など、医療福祉の専門性を生かしたボランティア活動が、センター開設前より数多く展開されていた。

二〇〇〇年には、大学敷地内に国際医療福祉リハビリテーションセンター(以下リハセン)が開設され、関連施設でのボランティア活動も始まった。学生は授業の空き時間を利用して、活発なボランティア活動を展開した。この時リハセン内の一室に施設内のボランティアをコーディネートするボランティアアセンダー(現・国際医療福祉リハビリテーションセンターVC)を設置し、ボランティアコーディネーターが常駐するようになった。

二〇〇四年に発生した中越地震では、多くの学生がボランティアを志願したが、当時は大学としてのVCがなかったこともあり、思うように支援を展開することができなかった。これがひとつのきっかけとなり、学内VCの設置が検討され、二〇〇五年一月月の開設に至った。

大学内のVC開設は、栃木県内初であり、学内だけでなく、県内の学生ボランティア活動の促進にも寄与した。二〇〇七年、本学VCの提唱で始まった「とちぎ学生未来創造会議」は、県

などが贈られた。最後に、最優秀賞・優秀賞・佳作の受賞者五名による作品朗読(欠席者一名の作品は司会者が代読)が行われた。自らの体験を通して得た発見や喜び、苦悩や悲しみなど、高校生の素直な思いが伝わり、同時に、試練に真剣に向き合い答えを導き出す姿は来場者に感動を与えた。

最優秀賞	優秀賞	佳作	入選	学校賞
青木綾香さん 千葉・千葉敬愛高等学校三年	榎引潤菜さん 栃木・宇都宮文星女子高等学校二年	杉本理紗さん 新潟県立村上高等学校二年	園田美月姫さん 愛知・名古屋大学教育学部附属高等学校二年	岩手県立盛岡第二高等学校 茨城常総学院高等学校 栃木県立小山城南高等学校 群馬県立吾妻高等学校 神奈川県立川和高等学校 山梨県立山梨高等学校 大分・岩田中学校・高等学校
千葉・千葉敬愛高等学校三年	伴田琴美さん 新潟県立村上高等学校二年	平澤怜奈さん 岐阜県立飛騨高山高等学校一年	橋本唯衣さん 大阪・四天王寺高等学校二年	山形・新庄東高等学校一年
榎引潤菜さん 栃木・宇都宮文星女子高等学校二年	杉本理紗さん 新潟県立村上高等学校二年	青山早智子さん 広島・広島なぎさ高等学校三年	山石麗さん 山形・新庄東高等学校一年	岩手県立盛岡第二高等学校 茨城常総学院高等学校 栃木県立小山城南高等学校 群馬県立吾妻高等学校 神奈川県立川和高等学校 山梨県立山梨高等学校 大分・岩田中学校・高等学校

(東京事務所 広報部 立花鉄二)

内の学生ボランティアの連携の促進と、県内各大学でのボランティア活動の活性化を促した。

二〇一一年三月一日に発生した東日本大震災では、震災直後から学生の主体的な「災害ボランティアプロジェクト」が発足し、VCはその活動を支援した。三月一四日から三一日の間に、この活動に参加した学生ボランティアは延べ二二〇〇人以上上った。

また、その後行われた宮城県岩沼市での現地支援の活動にも、二〇〇人以上の学生・教職員がボランティアとして参加した。中越地震をきっかけに設置されたVCが、その役割を大きく果たした出来事であった。被災地支援活動は現在も行われており、本学学生が津



●災害ボランティア(宮城県岩沼市での泥出し・瓦礫撤去活動)

波の犠牲となった宮城県岩沼市での継続した支援活動は、昨年、「岩沼市功労者表彰」をいただくことになった。このほか、郡山市の原発避難者仮設住宅への定期的な訪問、毎年三月に行う被災地支援の義援金募活動、ベルマーク収集活動を通して被災地支援などをVCの事業として行っている。

大学VCの役割は、「共に生きる社会の実現」という基本理念を持つ本学にとつて、社会に貢献する大学の姿を積極的に表すことであり、この姿勢を通じて、本学学生に積極的・主体的に社会に貢献する意識や態度を養う意義がある。

幸い、本学学生は、伝統的にボランティア活動への意識が高く、現在も学内に二〇を超えるボランティアに関する部・サークルがある。大学関連施設では、学生のボランティア活動が日常化しており、二〇一一年から始まった国際医療福祉大学病院でのボランティア活動も、地域の病院利用者の方に大変喜ばれている。この良き伝統を今後も引き継ぎ、「共に生きる社会の実現」にさらに寄与していきたい。

現在も学内に二〇を超えるボランティアに関する部・サークルがある。大学関連施設では、学生のボランティア活動が日常化しており、二〇一一年から始まった国際医療福祉大学病院でのボランティア活動も、地域の病院利用者の方に大変喜ばれている。この良き伝統を今後も引き継ぎ、「共に生きる社会の実現」にさらに寄与していきたい。



●関連施設等でのボランティア(ボランティア団体かざなの構内関連施設での活動)



●病院ボランティア(附属病院での案内・機械操作補助等の活動)

(IUHWボランティアセンター長 大石剛史)

留学生が見た 母国と日本の保健福祉事情 第5回

★アウンティハさん ミャンマー出身
医師(病理) / 博士課程3年(保健医療学病理)



私は二五歳のときに、母国で病理医として修士課程を修了し、二〇一三年から本学の博士課程で学んでいます。大田原キャンパスに所属し、初めのうちは一週間に五日、今は二三日、国際医療福祉大学病院で実習をしています。

私も含めて、ミャンマーの多くの人は、日本に行つて勉強することを「夢」だと思っています。日本は世界でトップの国であり、情報・テクノロジー・教育システムなどが整っていて、研究する環境として、日本は最初に名前の挙がる国になっています。

医療を取り巻く環境に関しても、国民皆保険をはじめとした日本の医療保健システムや行き届いた医療サービスは、ミャンマーでも有名です。ミャンマーの医療インフラは未発達で、医科大学は四校で、医師は三〜四万人、看護師や薬剤師、医療技術者を養成する大学は一六校にとどまっています。また、国民の教育費は低水準で、教育の設備も遅れています。

ミャンマーと日本は、教育・文化・スポーツの分野で交流が盛んです。医療福祉の分野でも、双方の実情を知り、それを伝えるために学生交流がもっと盛んになるこ



●12月に大田原キャンパスで開催された国際交流親善パーティでは、ミャンマーからの留学生がティハさんの歌に合わせてダンスを披露した

とが望まれます。国際医療福祉大学は、JICAによる「リハビリテーション強化プロジェクト」でミャンマーに専門家を派遣し、さらに、国立リハビリテーション病院のリニューアルや、作業療法士などの養成についても検討を進めています。私の専門である病理や画像診断の分野では、ヤンゴン第一医科大学と国際医療福祉大学三田病院の間で遠隔診断システムの実験を成功させました。

これから医療福祉の分野で留学を考えている人には、先生がやさしく、情報提供がしっかりしている国際医療福祉大学をすすめます。日本語プログラムがあり、日本語や日本文化を学ぶことができ、また、英語で「関連職種連携教育」を学ぶカリキュラムで日本の学生としっかりと学ぶことができます。

施設インフォメーション／新春のごあいさつ ● 国際医療福祉大学塩谷病院 ● 国際医療福祉大学三田病院 ● 国際医療福祉大学熱海病院

附属病院

国際医療福祉大学病院

病院長 桃井 真里子



東京大学卒、医学博士。自治医科大学小児科学主任教授、同大医学部長等要職を歴任。日本学術会議会員。本学副学長。

当院は、栃木県北医療の要であるのみならず、北関東・南東北の医療に貢献する総合病院であるべく、一同努力してまいります。昨年は手術部による手術室の効率的運用、二診体制による救急応需率の向上等、数字に基づいた改善を方針とし、一般病棟の病床利用率は常に九〇%を超え、救急入院が困難な状態も生じています。並行して、退院支援の強化や、関連施設である「マロニエ苑」をはじめとした地域医療福祉施設や医師会との連携強化に努めました。

また、医師育成機関としても来年度の臨床研修医は五名が確定。さらに新たな専門医制度に対応し、内科・外科・小児科などでは、研修基幹病院となるための準備を進めております。本年はこれらとともに、増床に向けた各専門医療提供体制のさらなる充実に向けてまいります。本年もよろしくご支援のほどお願い申し上げます。

附属病院

国際医療福祉大学塩谷病院

病院長 福井 康之



慶應義塾大学卒、医学博士。前国際医療福祉大学三田病院副院長。日本脊椎脊髄病学会指導医、日本整形外科学会専門医。

当院は、矢板市、さくら市および塩谷町などを中心に、当地域の方々の健康を守る基幹病院の役割を担っております。常勤医師数は三〇名程度ですが、医師間はもちろんのこと、医療スタッフ間でも密なチームワークを心がけています。お陰様で昨年は、外来患者数、入院患者数並びに手術件数も順調に推移し、二〇〇九年四月に塩谷総合病院から継承して以来の実績を挙げることができました。

院内設備も手術室の一部リニューアルを実施し、難易度の高い外科手術や整形外科手術にも対応可能となりました。本年は医師・医療スタッフのより一層の充実を図り、急性期医療はもちろん、リハビリテーションや介護の分野でもさらにレベルアップし、地域医療の貢献に力を尽くす所存です。また、医療安全面でもより一層精度を上げるよう、職員一丸となって取り組んでまいります。本年もなお一層のご支援、ご指導をよろしくお願い申し上げます。

附属病院

国際医療福祉大学三田病院

病院長 小川 聡



慶應義塾大学卒、医学博士。慶應義塾大学名誉教授。元日本循環器学会理事長、元日本心臓病学会理事長。

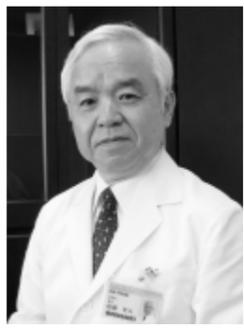
当院は、昨年二月一日〜一日の五日間、シカゴの国際医療機関認証機構（JCI）本部から審査員三名を迎えて審査を受け合格。遂に二年越しの大目標を達成しました。都内では聖路加、N T T関東、順天堂に次ぐ快挙。国内でもまだ取得したのは二〇病院足らずです。審査では、医療の質、患者安全に関する一一四〇項目の基準に合致するかが検証され、ほぼ満点の成績。わずかに二六項目に条件がつけられました。最終日には審査員から「初めて審査を受けた病院として最高の成績で、すばらしい病院です」と褒めの講評をいただきました。八〇〇名の職員全員が努力した結果です。

この間、当院の医療は目に見えて質が上がりましたが、何よりも、部門を超えて職員が心を一つにして取り組むことで、大きな絆ができたことが最大の収穫です。これを出発点として、さらに高いレベルをめざしてまいります。

附属病院

国際医療福祉大学熱海病院

病院長 佐藤 哲夫



東京慈恵会医科大学卒、医学博士。前三田病院副院長、元東京慈恵会医科大学助教授。日本呼吸器学会指導医。

波静かで風光明媚な相模湾に接する当院は、伊豆半島の東側から県をまたぎ、小田原市にかけての医療を精力的に担っております。四月には静岡県の推薦を受け、国から「地域がん診療病院」として指定される予定です。さて、人口四万人の熱海市では高齢化率（人口における六五歳以上の割合）が四四%に達しており、日本の二〇二五年問題をはるかに先取りしています。疾病構造は慢性疾患が増加し、複数の疾病を持った方の代謝能力が低下することにより、必要な医療はケアからケアへと変化しています。このため今後は、治癒をめざす従来型の医療から生活支援型の医療へと舵を切っていく必要があります。先端的医療を行いつつ、地域連携・地域包括ケアをいかに構築していくかが、当院の本年の喫緊の課題です。

本年も皆様のさらなるご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

臨床医学研究センター

国際医療福祉大学リハビリテーションセンター

センター長 下泉 秀夫



徳島大学卒、医学博士。元栃木県身体障害医療福祉センター医務科長。国際医療福祉大学大学院教授。

臨床医学研究センター

昨年十一月一日をもちまして、中谷肇一施設長が就任いたしました。杉原素子前施設長は、成田保健医療学部長に就任予定です。

新宿げやき園施設長 中谷 肇一



東京農工大学卒。前東京都福祉保健局健康安全部長。

当センターおよび社会福祉法人邦友会では、本年二つの大きな事業を行います。

一つ目は、学生実習室の整備とリハビリテーション室の充実等を目的としたリハビリテーションセンターの増改築です。昨年末から建築工事を開始し、本年七月末に完成予定です。二つ目は、大学北側の隣接地に、来年四月開園予定の認定こども園の建設工事です。こども園では、一般の保育に加えて延長保育、病児保育、病後児保育、休日保育等も行い、地域の子育て世代が働きながら安心して子育てができるよう支援してまいります。今年も、ご指導、ご支援をよろしくお願いいたします。

臨床医学研究センター

山王病院

病院長 堤 治



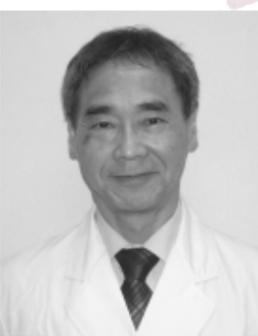
国際医療福祉大学の臨床医学研究センターである当院は、昭和二二年の創設以来、オープンで安心な思いやりのあるプライベートホスピタルとして歴史を築いてまいりました。近接する山王メディカルセンターと協力して外来入院診療を行っており、入院診療を昨年二月に新棟が完成いたしました。長年の課題であったNICU新設、リハビリテーションセンターの充実に加え、三月には山王パースセンターの開設、六月には手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入しました。今まで以上に安心で安全、かつ高度な医療をご提供できると自負しております。

本年もご支援、ご鞭撻をお願いいたします。

附属病院

化学療法研究所

病院長 西野 卓



当院は、二〇〇五年に国際医療福祉大学の臨床医学研究センターに指定されて以来、地域に信頼され、愛される医療施設となるよう努力を重ねてまいりました。当院は千葉県市川市に位置しますが、本年四月には県内に看護学部・保健医療学部を擁する国際医療福祉大学成田キャンパスが開校します。両者は比較的近いことから、今後当院は、国際医療福祉大学の教育実習病院としての一層の役割が期待されております。職員一同、地域医療を充実させ、教育施設としての役割を十分果たせるよう努力するつもりです。本年もよろしく、ご指導、ご支援をお願いいたします。

臨床医学研究センター

高木病院

病院長 岩坂 剛



急性期棟の完成から一年。HCUの新設でICUに余裕ができ、受入能力が飛躍的に拡大しました。昨年は「臨床微生物・遺伝子検査研究センター」を開設。院内で感染症の原因微生物の遺伝子検査等を行うため、結果が迅速に判明します。大学の医学検査学科でも使用し、そうした教育が可能になりました。また、大川市と提携したドクターカーの運用も本格化。最新型リニアックを導入して強度変調放射線治療（IMRT）を開始し、多くの症例に対応しました。今後、緩和ケアの充実を含め質の高いがん医療の整備を進めてまいります。今年もご支援をよろしくお願いいたします。

施設インフォメーション／新春のごあいさつ ● 国際医療福祉大学塩谷病院 ● 国際医療福祉大学三田病院 ● 国際医療福祉大学熱海病院

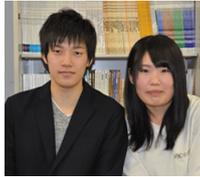


先輩に聞く 国家試験を控えて 受験の傾向と対策

「学生が学生にインタビューする」このシリーズも早くも5回目。
国家試験を目前に控えた4年生が、来年は同じ状況を味わっている3年生に、
この1年間の過ごし方を伝授します。



保健医療学部 視機能療法学科 School of Health Sciences / Department of Orthoptics and Visual Sciences



回答者 4年生
奥田達也さん(左)
栃木県立上三川高校出身
及川沙紀さん(右)
岩手県立一関第二高校出身

**第46回
視能訓練士国家試験**
試験日：2016年2月25日
インタビュー 2015年12月9日



インタビュアー 3年生
三森奈菜さん(左)
栃木県立黒磯高校出身
渡辺楓香さん(右)
茨城県・常磐大学高校出身

Q 国試の勉強を始めて、これなら3年生のうちにできていたと思ったことは？

及川 全部できると思う。3年生で習ったことは3年生のうちに覚えておくのがいい。
奥田 特に生理光学はもうまとめに入れるので、完璧にしておく。

Q 具体的な勉強方法は？

奥田 私は最初に『視能学』をだいたい頭に入れてから、今は『アセスメント』という問題集を解いている。



及川 私も同じパターン。テストで先生が苦手な部分を指摘してくれるので、『視能学』で確認してから、『アセスメント』で力試し。
奥田 臨地実習で必要になるから、疾患と解剖は『視能学』で徹底的に覚えておくといい。

Q 臨地実習と国試の勉強は両立できる？

及川 後期の臨地実習、卒業研究、国試の勉強が重なって忙しい。今は国試の勉強より卒業研究の方に比重がかかっている。
奥田 でも、全部つながってくる。特に、疾患は臨地実習で固められると思う。

Q 苦手分野はどんなふうに克服していく？

及川 私は弱視訓練が全然わからないけど、まだ克服してなくて、これからの課題になる。
奥田 私は生理光学と眼球運動が苦手ですが、対策はこれから。得意なところから固めている。

Q 暗記方法は？

奥田 つなげて覚えないと覚えきれないけど、まずは単体で覚えて、あとでつなげることもできる。問題の出し合いはひとりではできないアウトプットの練習になる。

及川 最初はノートを作ろうとしたけど、無理だと思ってやめた。教科書をベースにして繰り返しで覚える。

Q 勉強する場所は？

及川 私は自分のペースでやりたいタイプなので、ほかの人を気にしないでいいように、家か適度に音のあるカフェ。
奥田 私はいろいろ。気分転換も兼ねてそのときにしっくりくる場所を選んでいる。

Q 追い込みに入ったこれからのペースは？

奥田 時間管理というより、自分の課題の到達目標をクリアするための生活になると思う。

●「試験当日の自分の仕上がりを100%としたら、今はどこまでできていますか？」という質問に、ふたりとも「30%」。卒業研究が終わってからが本当の勝負。でも、それまでにどれだけやっておくかが、追い込みのカギになるのかもしれない。

保健医療学部 言語聴覚学科 School of Health Sciences / Department of Speech and Hearing Sciences



回答者 4年生
川村なごみさん(左)
宮城県仙台南高校出身
小堀一貴さん(前)
栃木県立鳥山高校出身
小林千夏さん(右)
山形県立山形西高校出身

**第18回
言語聴覚士国家試験**
試験日：2016年2月20日
インタビュー 2015年12月22日



インタビュアー 3年生
西巻愛さん(左)
栃木県立佐野女子高校出身
(現 佐野東)
木村和紗さん(右)
栃木県立さくら清修高校出身

Q 今の時期、一日の勉強の時間は？

川村 授業がない日は朝9時から夜10時まで。7時に学校に来てがんばっている人もいる。

Q 本格的に国試対策を始めたのはいつ？

小林 私は後期に学外実習があったので、それが終わった11月から始めた。
小堀 実習に行ったのに、11月初めのテストで、みんな成績が平均で20点くらい落ちた。そこで尻に火がついた。
川村 7月にタイムカード管理で9時から5時まで学校にいるという決まりがあって、それも今思えばよかった。11月からはみんな100%がんばる。だから、その前に少しずつやっていた人が一歩二歩リードしている気がする。
小林 そう。きちんと理解していなくても、見たことがあるだけで解ける問題もけっこうある。『STテ

キスト』を読み込んで、もう何巡目という人もいる。

Q ノートまとめはどんなふう？

小堀 書かないと覚えられないタイプだけど、レイアウトを考える時間はもったいないので、とにかく殴り書きで頭に入れている。
小林 私もまとめ用ではなく、書くためのノートを作っている。まとめるのは『STテキスト』に附箋やコピーを貼り付けて、そこを開けば全部わかるようにしている。進行中だけど。

Q 『STテキスト』をベースに勉強している？

小堀 ほとんどの人がそうだと思う。
川村 私はそこに気がつくのが遅かったけど、大



切なことは全部書いてある。それと、講義の資料はこれ以上ないくらいまとまっている。

Q 3年生までにもっとやっておけばよかったことは？

小堀 もっと遊んでおけばよかった。
小林 私も遊ぶのが大好きだから、その合間でも『STテキスト』を見ておけばよかった。
川村 「もっと」というより、何から始めたらいいのかわからなかった。結果的に、過去問から始めたのがよかった。
小堀 自分の弱点を知っておくということか。

●上の視機能療法学科と同じ自分の仕上がりの質問に、川村さんは「70%」、小林さんは「50%」、小堀さんは「80%」。そして、「1年前は？」と聞くと、ひとりが出た「2%」という答えにほかの2人もうなづいていました。3年生の西巻さんと木村さんは、少し安心したでしょうか。